

おいでん・さんそん とよた森林学校運営委員会発行

最終号

No.6 2024年3月号

# とよた森林学校だより

## 森林と災害

第1回 「水害、土砂災害と森林の働き」

10月22日(日)

第2回 「間伐すれば人工林はよみがえる」

11月 5日(日)



▲明治時代からの研究施設の見学

第1回目は、講師の蔵治東大教授の以前の職場でもある東大赤津演習林で開催。

自然災害による不慮の事故、土砂災害水害の歴史にふれた。

また2000年9月11日の東海豪雨の状況や矢作ダムでの緊迫した状況などが豊富な写真や地図、グラフなどで知らされた。

ここ数年、このあたりで災害にみまわれていないのは「偶然」であることが指摘され、参加者はリアルに災害の問題への意識を持てたと思われる。

研究林の見学では、明治以降の学問的な研究がされている現場をみて、参加者は感動していた。



▲東京大学のヘルメットを頭にのせて！

第2回目は、午前中、小原交流館で講義。

人工林問題の前提となる様々な知見が展開され、初心者も、森林に長年関心を持っている方々も、十分理解されたと思う。

各地の災害から見えてきた、災害に強い森林などのあり方への考察は、橋や河川改修、森林作業など現場の担当者、行政担当者にも聞いてもらいたい内容でもあった。

午後からの大洞市有林では、実験とデータ収集装置の見学。

どの程度の間伐だと、どれほどの効果があるのか。現場での比較検討を実際すすめるため、東大実験施設では、様々なデータを集めるための東大関係者の地道な努力、とりわけ研究者による手作りの実験装置に、一同感動をもって見学できた。基礎研究、データの集積の地道なご努力が災害防止の試みを支えていると思う。(山崎)



▲研究者手作りの実験装置

### (受講生感想)

●矢作川上流の地質が、圃化花崗岩であることが分かり、樹木が根付いていないと山から流れ出すということもある。自然の力はすごいなと思った。東海豪雨災害は上流で大変な状態であったのは勉強になった。

●最近の温暖化によって思ってもみなかった災害があっている。災害を身近に考える機会となった。



蔵治先生は、森林学校の校長先生で、大学院で「森と水と人との関係」や、「地域森林自治」の分野を研究する教授です。蔵治先生の「知識のダム」から、私たちに、森のことを少しづつ、放流していただきます、お楽しみに！

## 2024年度・新講座 「みんなで考える森の歴史とミライ」を開講します！

スギやヒノキは人間よりもはるかに長寿の生き物です。旭地区杉本町神明神社の貞観スギと根羽村の月瀬の大スギはいずれも樹齢1000年を超え、昭和19年に国指定天然記念物に指定されています。幹回りはそれぞれ11.7、13.8メートルで、幹を円と仮定すると直径は約3.7、4.4メートルとなり、巨木の名にふさわしい大きさです。

では、豊田市の人工林の多くを占めている55～65年前に植林されたスギやヒノキの人工林も、遠い未来にはこのような巨木の林になっていくのでしょうか。

房総半島にある東大の千葉演習林には、100年以上前に植林された人工林のすべての樹木に番号を付け、5年に1回直径を測定し続けている試験地が複数あります。

ここに100年以上のデータを示したグラフを紹介します。凡例の「午房沢、豪代、大平、安野、女滝、二ノ台」は試験地が位置する地名です。

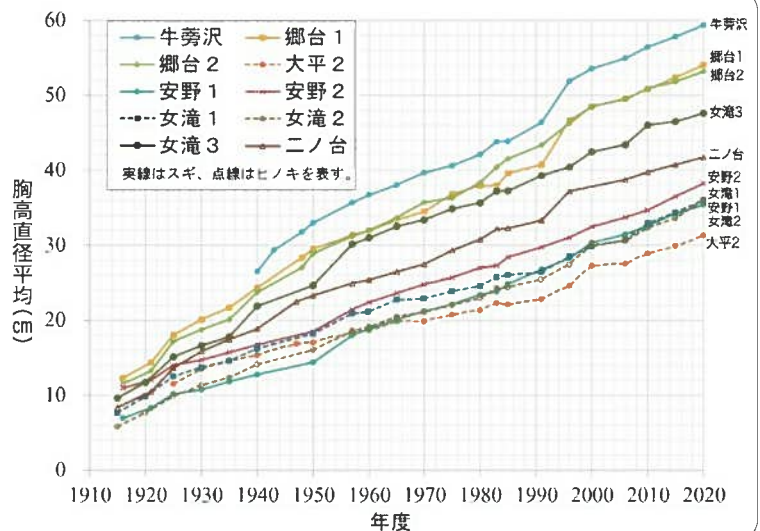
このグラフからわかることは、100年を超えても直径の増加傾向が頭打ちになることはなく、成長を続けていることです。この傾向が今後も続けば、1000年後には貞観スギや月瀬の大スギのサイズに到達することも十分考えられます。

スギの場合、場所による成長の違いが大きいこともわかりました。これらの試験地の中には、尾根の試験地も谷筋の試験地もあり、地質条件も異なります。林地の生産力をあらわす指数として地位指数という概念があります。地位指数は樹高の成長量で評価する指数ですが、樹高だけでなく直径の成長量も林地の生産力によって大きく異なるようです。

これらの試験地はいずれも数回、間伐をしており、台風による倒木も発生するので、単位面積あたりの本数は減ってきています。

豊田市の放置人工林では強度間伐が進められてきましたが、間伐を進めると保残木は巨木化していきます。巨木の林には様々な価値がある一方で、伐採や輸送が難しくなってゆき、木材を生産しにくい森になっていきます。

1000年後の豊田市の森をどのような姿にするのか、そのために今何をしなくてはいけないのか、過去を学び、未来を考える講座「みんなで考える森の歴史とミライ」を来年度、開講します。皆様の受講をお待ちしています。



## 間伐ボランティア初級講座

2023年 9月16日(土)～18日(祝)  
豊田森林組合&足助城前山林



東海豪雨って覚えていますか？ そのとき豊田スタジアムの前は？ 矢作ダムは？ 水害を防ぐためにも水源の森を守ろうという意識継続が必要です。その市民活動の入口となる人気講座の1つです。

約50名の応募者から18名の選抜。今回受講できなかった皆さんには、本当に心苦しいばかりです。

初日は皆さん緊張した面持ち。豊田市森林課から間伐の必要性を聞き、さらにチェーンソーによる伐倒技術だけでなく、森づくりは林分調査とセットであることを学びました。

いざ現場へ。各班で日増しに意気投合しながら、チェーンソーの扱い方を学び、最終日にはチームワーク良く各自伐倒を進めました。

閉講式では皆さん笑顔で、「木が倒れる時が印象的。もっと学びたい!」との感想をいただきました。講座後の「フォローアップ講座」を活用してもらい、より経験を積みながら、各自森づくりの思いを育んでいただければと思います。

### (受講生感想)

- 短期間(日数・時間的にも)でしたが、広く深い内容をわかりやすく説明いただき、楽しく学べて良かったと思う。
- 笑顔でほめていただいたときは本当にうれしかったです。
- お弁当が私には少し多かったです。おいしかったです。
- 森林ボランティア等を通して、森にとっても人にとっても良い森に近づけるお手伝いがしたいです。(恵比根)

## 森林観察リーダー入門講座

2023年 8月20日(日)～10月29日(日)/旭高原元気村



▲一生懸命に観察会の準備して、充実感いっぱい！

今年は8月20日～10月29日の全6回、受講者は13名でした。場所は昨年に続き旭高原元気村です。

森林のしくみ、植物の見方、観察会の運営などを学びました。

第5回と第6回は模擬観察会です。最終回では9名11ポイントの発表がありました。

この講座は長丁場なので、どうしても都合が悪くなる方がみえます。また機会があれば参加していただければと思います。

体験型の観察を取り入れた、ゆっくり、じっくりとした模擬観察会を目指しました。

皆さんの感想の中で、「事前の準備は大変だったけど面白かった、もっと自然のことを知りたい、もっと自然に関わりたい、そして自然観察会をやってみたい」という感想がありました。

受講された方は、準備さえすれば自然観察会が出来ることを体験されたと思います。

自然と森林を大切にする「森の応援団」が増えたな！と感じました。(長谷川)

## 楽しい森林ウォーキング

### ●第1回 面ノ木峠 ブナ原生林1周コース 2023年9月14日(木) 稲武町面ノ木峠

北岡班・松山班の2班に分かれて、5時間のウォーキングをしてきました。原生林あり、1200高地の登頂あり、矢作川源流あり、苔の森ありの、変化に富んだコースです。

原生林では樹齢400年のブナの巨木に圧倒され、キハダをかじって百草丸を思い出しました。

ツリフネソウ、ヤマジノホトギス、ミヤマママコナ、コフウロ、ゲンノショウコなどの花々に癒され、熟したヤマボウシの実の甘いデザートをいただきました。

(永井)



▲キハダの黄色くて苦い部分をかじってみた！  
「百草丸の味だ！」

### ●第2回 三河湖ウォーキング半周コース 2023年9月28日(木) 羽布町三河湖

朝のうちに、車5台をダムの上流に置いて、三河湖半周のウォーキングを開始しました。

最初に羽布ダムを通過して向こう岸に渡り、平坦な木陰の道を楽しみました。

今回は、ホトギス、ヤマジノホトギス、アケボノソウ、ツリフネソウ、ヤクシソウなどの花が美しく咲いていました。また、山栗、むかご、あけび、ウラジロマタタビ、ツノハシバミなどのおいしい秋のごちそうも、いただきました。(永井)



▲小さな植物もていねいに観察！

### ●第3回 小原地区 荷掛林道コース 2023年10月12日(木) 豊田市大平町

豊田市大平町の大平児童館に集合して、まずは、大平町の有志で保護しているシデコブシがある、カハイジ湿地に向かいました。

湿地には、タカクマヒキオコシ、センブリ、サワギキョウ、サワシロギクなどの花がありました。いろいろな木の実を、味見をしながら歩きました。

帰りは、大平町の有志で整備している大平トレイルをくだりました。獅子が大きく口を開いたような石や、ヒツジグサが咲いている、おかいこババの池、などを訪れました。(永井)



▲獅子岩に喰われる二人▶

フサザクラ(フサザクラ科)



絶対に桜の仲間とは思えないのに、サクラと名付けられた樹木が、フサザクラです。花も実も葉も樹皮も、全く似ていないのに、本当に訳のわからないネーミングです。

それはさておき、本種はフサザクラ科フサザクラ属に属し、日本では1科1属1種しかなく、世界中をみても、あと中国などに2種あるだけです、滅びゆくグループでしょう。

フサザクラは山地の崩れやすい沢沿いに多く生え、平地では全く見ることができない、落葉広葉樹です。

樹高は10mを超えることもあります。溪流にかかる橋から下を見下ろすと、沢山生えていることに気づきます。

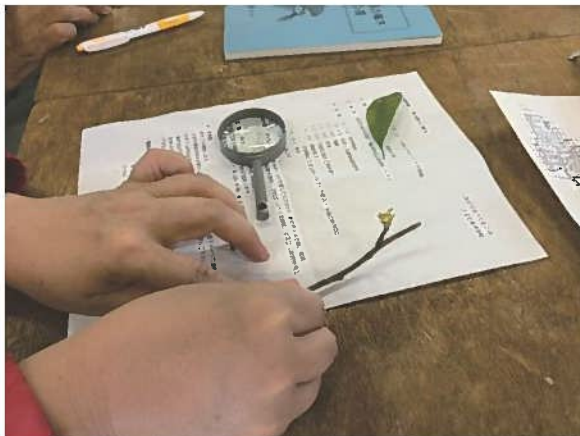
花は早春に咲き、房状に垂れ下がるオシベの葯が目立ちます。メシベは、オシベの房に隠れて目立ちませんが、受粉すると、ゆがんだ団扇状の面白い形をした実を多数付けます。

ちょっとカツラの実に似ていて、両種が近縁関係にあることがわかります。



第3回 身近な樹木調べ

●東海地方固有の樹木(昭和の森) 2023年11月12日(日)



▲樹木の冬芽など、実際手にとって、じっくり観察!

11月12日、愛知県緑化センター昭和の森で、身近な樹木調べ第3回を開催しました。今回のテーマは「東海地方固有の樹木」です。午前には東海丘陵要素について講義。またシデコブシの葉と冬芽、ナツツバキの冬芽を実際に手にとって観察しました。シデコブシについては、長い毛で覆われた花芽を手で解剖して、花弁や蕊が折りたたまれている様子を確認しました。午後は昭和の森で樹木調べ、あらかじめ講師から、東海地方を代表するモンゴリナラ、シデコブシ、ヘビノボラズの3種類の本を確認するようとの指示があり、それらを含めて自生する樹木を観察しました。ナツハゼの紅葉やタカノツメの黄葉が美しく、ナツハゼ、カマツカ、ヤブムラサキの実を味わうこともできました。(中根)

森林学校講座の申込方法

1. 豊田市・森の総合サイトTomori にアクセス!

豊田市 トモリ 検索

2. アカウント登録 (初回のみ)

- 「楽しむ・学ぶ」ページ右上の **新規登録** をクリック
- 必要情報を入力し、**利用規約に同意して登録** をクリック
- 届いたメールのURLをクリックし、サイトで本登録をして完了!

3. 講座の申し込み

- サイト上部の「楽しむ・学ぶ」をクリックし、
- **申し込み** をするをクリック
- 必要事項を入力し、**登録する** をクリックし完了!

※こちらからも講座の申し込みができます

お問い合わせ・申し込み

●豊田市役所 森林課 0565-62-0602  
shinrin@city.toyota.aichi.jp

- 来年度から森林学校の運営は、「とよた森林学校実行委員会」が行います。2年間発行しました紙製の森林学校だよりは役目を終えます。今後、森林学校の様子は、フェイスブックやインスタグラムで見られるようになります。覗いてみてください!
- 詳細は2024年版の森林学校のパンフレットをご覧ください!



●トモリだガタモリだガ、Instagramだガインスタントなんだガ……若い世代と話すのに、パワハラにならないように気を遣い……「なんだガね?」って感じ!  
でもね、歳を重ねて、後ろを振り返らず、前だけ見て生きるのも悪くないね!若い時より生きるの楽だもん。今後とも、森林学校をよろしくお願いします♥